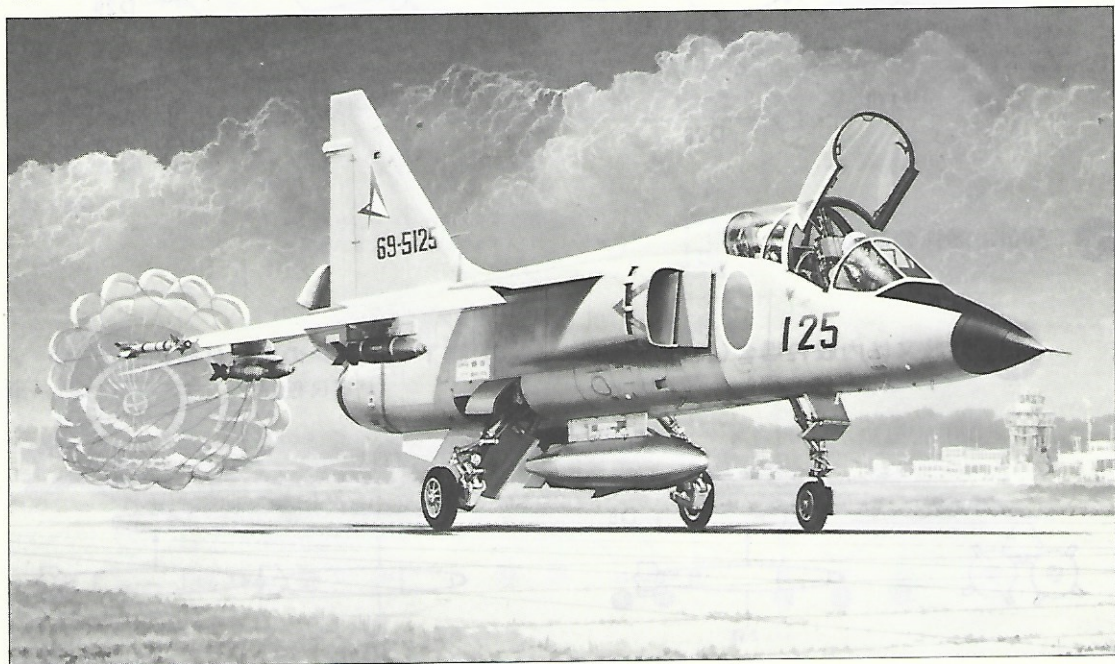


# MITSUBISHI T-2

1/48 SCALE FAMOUS FIGHTER SERIES NO.31

日本航空自衛隊高等練習機

三菱T-2



## 《三菱T-2》

昭和41年(1966)航空自衛隊では、T-33とF-104JとをつなぐT-Xと、F-86Fの代替機FB-X選定の必要に迫られていた。F-86Fの逐次リタイヤが近い将来予想されており、当時行われていたT-34-T-1-T-33-F-86Fの戦闘機パイロットの訓練体系に穴があくからである。

F-86Fが完全に姿を消してしまうと、T-33の基本操縦課程から一挙に超音速実用機へと移行する事になり、実用機へ進む前段階の戦技訓練が不可能となってしまう、F-104Jとの格差が大きすぎる事となる。

以上の観点からF-86Fに替わる超音速T-Xの必要性が生じたわけであるが、当時アメリカには優れた超音速練習機ノースロップT-38があり、輸入装備の希望が出されていた。しかし航空自衛隊では実用戦闘機は防衛力として温存しておき、実用機での訓練を避けたい考えであった。

T-38では戦技訓練が出来ず、実用機移行後に戦技訓練を行わざるを得なくなる為、超音速操縦と戦技訓練も出来る機体が要求され、国内開発の方針が決定された。名称もT-XからXT-2に改められ、防衛庁より要求仕様が出された。

基本要目は次の通りである。発動機は双発とし、最高速度マッハ1.6とする。固定武装としてM61(バルカン砲)を装備し、火器管制装置(FCS)を搭載する事。対空戦闘、対地支援が可能なる事。エジェクション・シートはゼロゼロ射出可能とする。

これらは単なる超音速練習機だけではなく、有事の際は実用戦闘機として使用される潜在能力を持ち、新機種すなわちFS-X(Fighter・Support-X)転用の基

礎が盛り込まれており、F-1の母体となるものである。なお、FB-XはFS-Xと改称されている。

防衛庁の要求仕様に対し、昭和42年(1967)2月8日に提出された計画書が審査され、9月5日三菱重工を主契約者とする開発チームが結成される事となった。同チームには国内各社の技術者が結集され、10月15日発足した。

設計の重点は次の通りである。抵抗減少には、エンジン、燃料、各種の搭載機器のスペースを確保しながら、胴断面を細くするという、相反する要求を満たす事。次に、必要強度を保ちながら重量軽減の為、各係統別に厳重な重量管理を行う事。次は簡素化を計る事であった。44年(1969)4月21~22日モックアップの最終審査を完了し、10月に試作1号機の製作が開始された。

2年後の昭和46年(1971)4月28日、予定より1ヵ月早く三菱重工小牧南工場をロールアウト、各種の地上試験を経て同年7月20日初飛行に成功した。11月19日のテスト飛行ではマッハ1.03を記録し、我が国独自の開発による初の音速突破の機体となった。試作機は4号機迄造られ、実験航空隊により計器類の検定、飛行性能、フラック試験、FCS関係、及び実用試験が行われた。

昭和48年(1973)8月29日、XT-2はT-2と改称、制式機となる。5号機より前期型量産機となり、6号機と7号機は最終機装段階でFS-T2改(F-1)の原型として特別仕様機に改修されている。

T-2前期型は飛行訓練用であり、レーダー及び機関砲を装備していないが、ダミー・ウェイトを搭載して、後期型と基

本重量の統一を計っている。戦技訓練用の後期型(1号機は69-5125)は、前に述べた様に固定武装としてバルカン砲を装備しており、火器管制装置も搭載している。

T-2の主翼は左右一体式の多桁構造で、削り出しのテーパ外被で覆ってある。前縁のフィレットを除く翼全巾と、後縁の75%翼巾にはフラップが設けられている。この為エルロンは無く、横方向の操縦はスポイラーで行っている。胴下1と両翼下4カ所にはハード・ポイントがあり、パイロンを取付けて各種外部兵装の装備が可能であり、翼端にはミサイル用ランチャーを取付ける事が出来る。

胴体は前胴、中胴前部及び後部、後胴に分けられ、整備性の向上を計る為、機体各部に多くの点検扉が配置されている。特に後部胴体のエンジン室は上方ヒンジ式の大形扉となっており、胴外形を形成している。エンジンの点検補修や交換は、扉を開くだけで、後胴は切り離す必要がない。

油圧は左右エンジンに装備した油圧ポンプから供給されるが、油圧ゼロ状態では水平尾翼の前縁はアップとなり、スピードブレーキも開状態に固定される。前脚は左舷にバルカン砲を搭載した為、スペースの関係で機軸より15ミリ程右寄りとなっている。コクピットの視界は良好でパイロットの好評を得ている。

|                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| 全長.....17.85m   | ホイールトラック.....2.81m        |
| 全巾.....7.88m    | ホイールベース.....5.71m         |
| 全高.....4.39m    | 発動機.....アド-72基(推力3,207kg) |
| 主翼下反角.....9°    | 最大速度.....M=1.6/11,000m    |
| 水平尾翼下反角.....15° | 基本重量.....6,622kg          |

# パーツリスト

## A 部品

1. 胴体 (右)
2. 胴体 (左)

## B 部品

1. 水平尾翼 (左)
2. 水平尾翼 (右)
3. 主翼上面 (右)
4. 主翼上面 (左)
5. 主翼下面 (右)
6. 主翼下面 (左)
7. 垂直尾翼 (左)
8. 垂直尾翼 (右)

## C 部品

- 1-12. エアインテーク補助口カバー
13. 横滑角検出器
14. アンテナ
15. 全温度センサープローブ (使用しません)
16. UHF アンテナ
17. 主輪旋回機構 (A)
18. 主輪旋回機構 (B)
19. 主脚スイングレバー (左)
20. 主脚スイングレバー (右)
21. 主脚柱 (右)
22. 主脚柱 (左)
23. スピードブレーキ・ロッド
24. 主脚収納部カバー (左)
25. 主脚収納部カバー (右)
26. Q フィール・ビーター管
27. エクゾースト
28. エクゾーストノズル
29. 前車輪
30. 主車輪 (A)
31. 主車輪 (B)
32. エアインテーク・ベンチレータ (上)
33. エアインテーク・ベンチレータ (下)
34. ビーター管
35. パイロット
36. 座席
37. 計器板
38. 前脚柱
39. フック後部
40. 前脚柱バー
41. アレスティングフック
42. 主脚収納カバーロッド
43. 下面外板 (スピードブレーキ部)
44. 下面外板 (主脚収納部)
45. フロア
46. 前脚カバー (A)
47. 前脚アーム
48. 翼端カバー (左)
49. 翼端カバー (右)
50. 安定フィン
51. デリカストッパー
52. 下面外板 (前脚収納部)
53. 主脚ドラッグ・シリンダー (左)
54. 主脚ドラッグ・シリンダー (右)
55. 主脚カバー (右)
56. 主脚カバー (左)
57. 空気取入口 (上部)
58. 空気取入口 (側面)
59. 空気取入口 (下面)
60. フリーザー排出口
61. 銃口カバー
62. 熱交換器空気取入口
63. 下面外板 (エンジン部)
64. エアインテーク (右)
65. エアインテーク (左)
66. 操縦桿
67. 前脚カバー (B)
68. 前脚カバー (C)
69. エアインテーク・ベーン (左)
70. エアインテーク・ベーン (右)
71. 頭当
72. スピード・ブレーキ (右)
73. スピード・ブレーキ (左)
74. 頭当
75. パイロット
76. 後席フロア
77. 後席計器板
78. 座席
79. 後席隔壁
80. 前席隔壁
81. 操縦桿

## D 部品

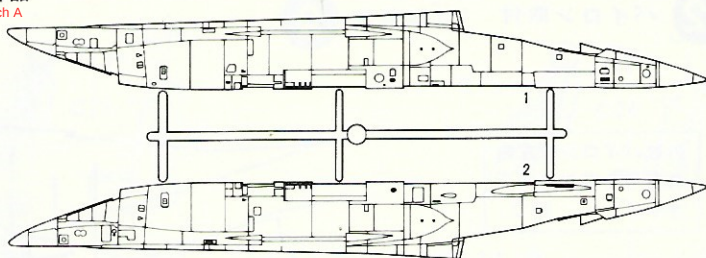
1. 外舷パイロン (右)
2. 外舷パイロン (左)
3. ロケットランチャ (使用しません)
4. 内舷パイロン (左)
5. 内舷パイロン (右)
6. 増加タンク (A)
7. 増加タンク (B)
8. ロケットランチャ (翼端用)
9. D・E・R
10. 落下増槽フィン (上部)
11. 落下増槽フィン (下部)
12. ASMフィン (前部)
13. F・E・R
14. 胴下パイロン
15. ASM (A)
16. ASMフィン (後部)
17. ASM (B)
18. サイドワインダー
19. 750Lb 爆弾 (A)
20. 750Lb 爆弾 (B)
21. 500Lb 爆弾 (A)
22. 500Lb 爆弾 (B)
23. ロケットポッド (A)
24. ロケットポッド (B)
25. ロケットポッド (C)
26. ロケットポッド (D)
27. サイドワインダー・フィン (後部)
28. 750Lb 爆弾フィン
29. 500Lb 爆弾フィン
30. サイドワインダー・フィン (前部)

## E 部品

1. 照準器
2. ストライクカメラ窓
3. ランディングライト
4. キャンビー (A)
5. キャンビー (B)
6. キャンビー (C)
7. キャンビー (D)

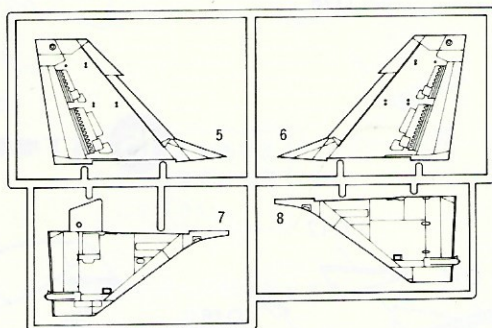
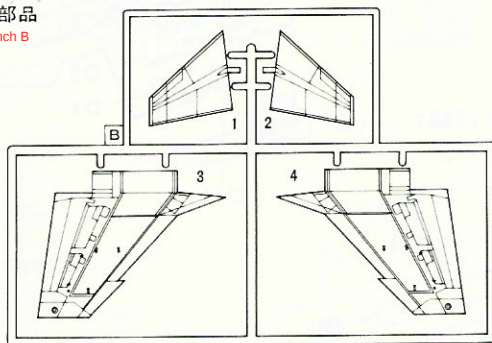
## A 部品

Bunch A



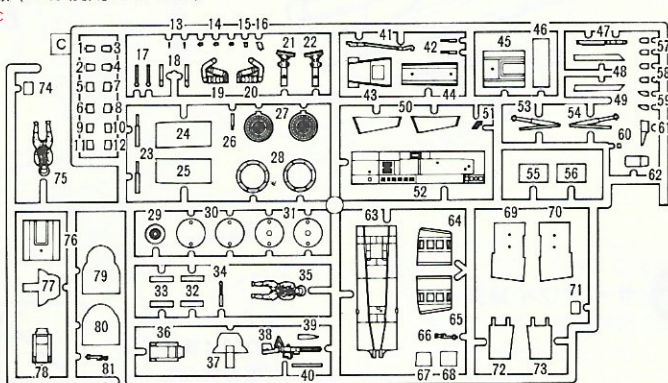
## B 部品

Bunch B



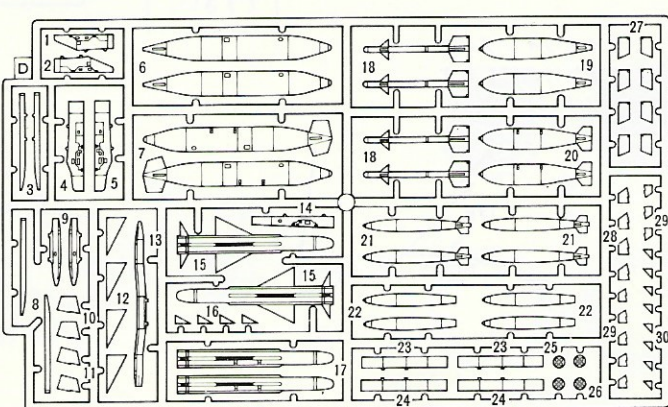
## C 部品 (15は使用しません)

Bunch C



## D 部品 (3は使用しません)

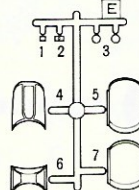
Bunch D



製作前に部品を良く調べて下さい。  
万一不良部品がありましたら、当社迄御連絡下さい。

## E 部品

Bunch E



本製品は品質を向上させるため、部品名を改良し、

取扱い上の注意

1 幼児の手が届かないところに保存し、

いつたつとしない様注意して下さい

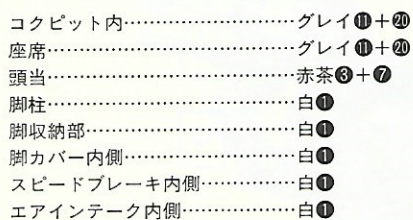
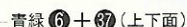
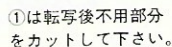
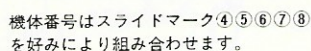
2 火気に注意し、燃焼をよけて下さい

3 故障に陥らない様注意して下さい

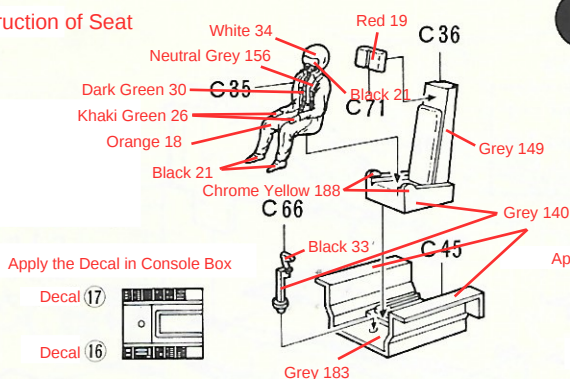
4 点検 点検 点検 点検 点検 点検 点検 点検

部品を取出した空箱は、幼児が壊したりしない様に破りして下さい

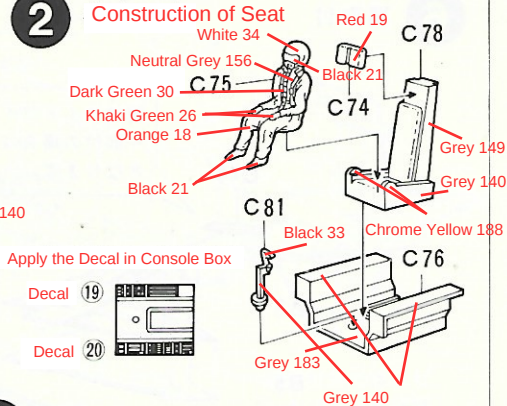
機体は後期型1号機



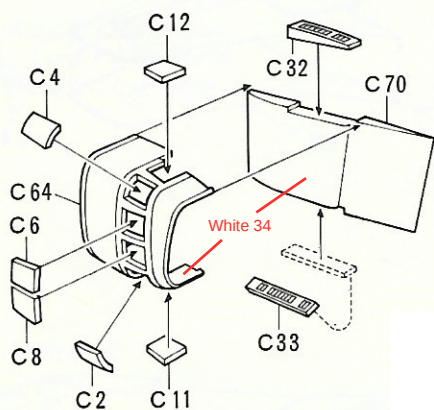
## 1 Construction of Seat



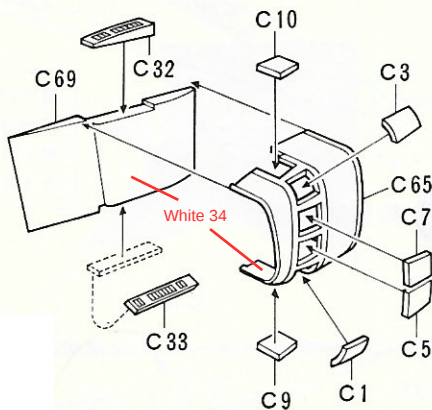
## 2 Construction of Seat



## 3 Construction of Air intake (Right)



## 4 (Left)

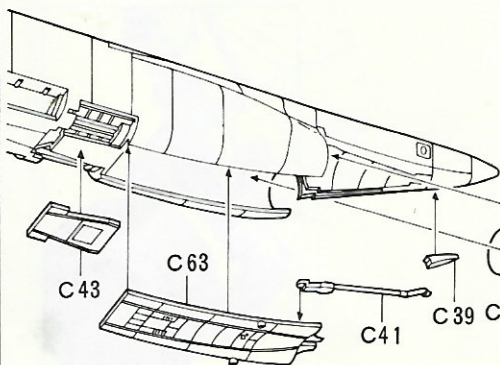
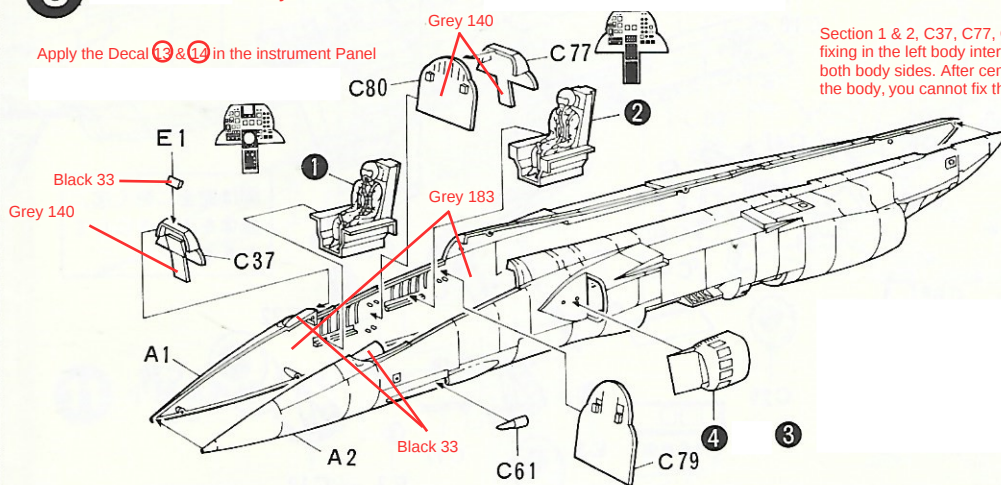


## 5 Construction of Body

Apply the Decal 13 & 14 in the instrument Panel

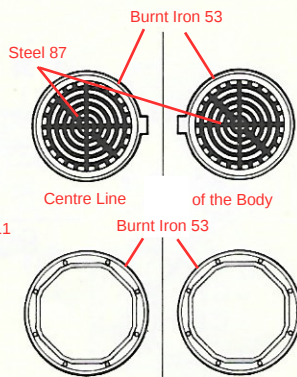
Apply the Decal 15 in the instrument Panel

Section 1 & 2, C37, C77, C79 & C80. After fixing in the left body interior and cementing both body sides. After cementing both sides of the body, you cannot fix them inside.



Burnt Iron 53

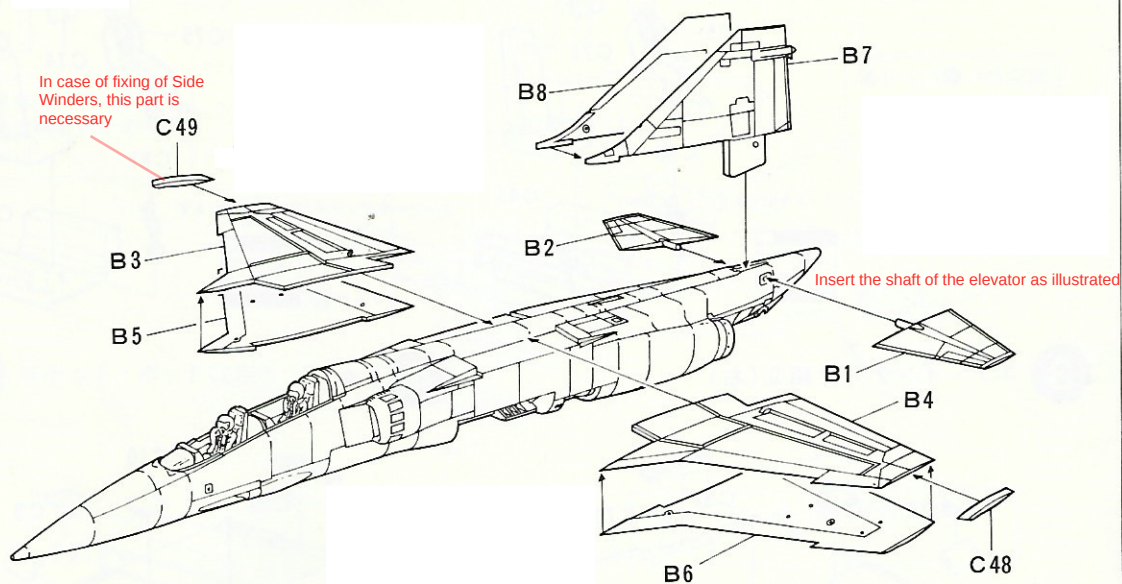
Metallic Silver 11



Direction of the Exhaust Nozzle

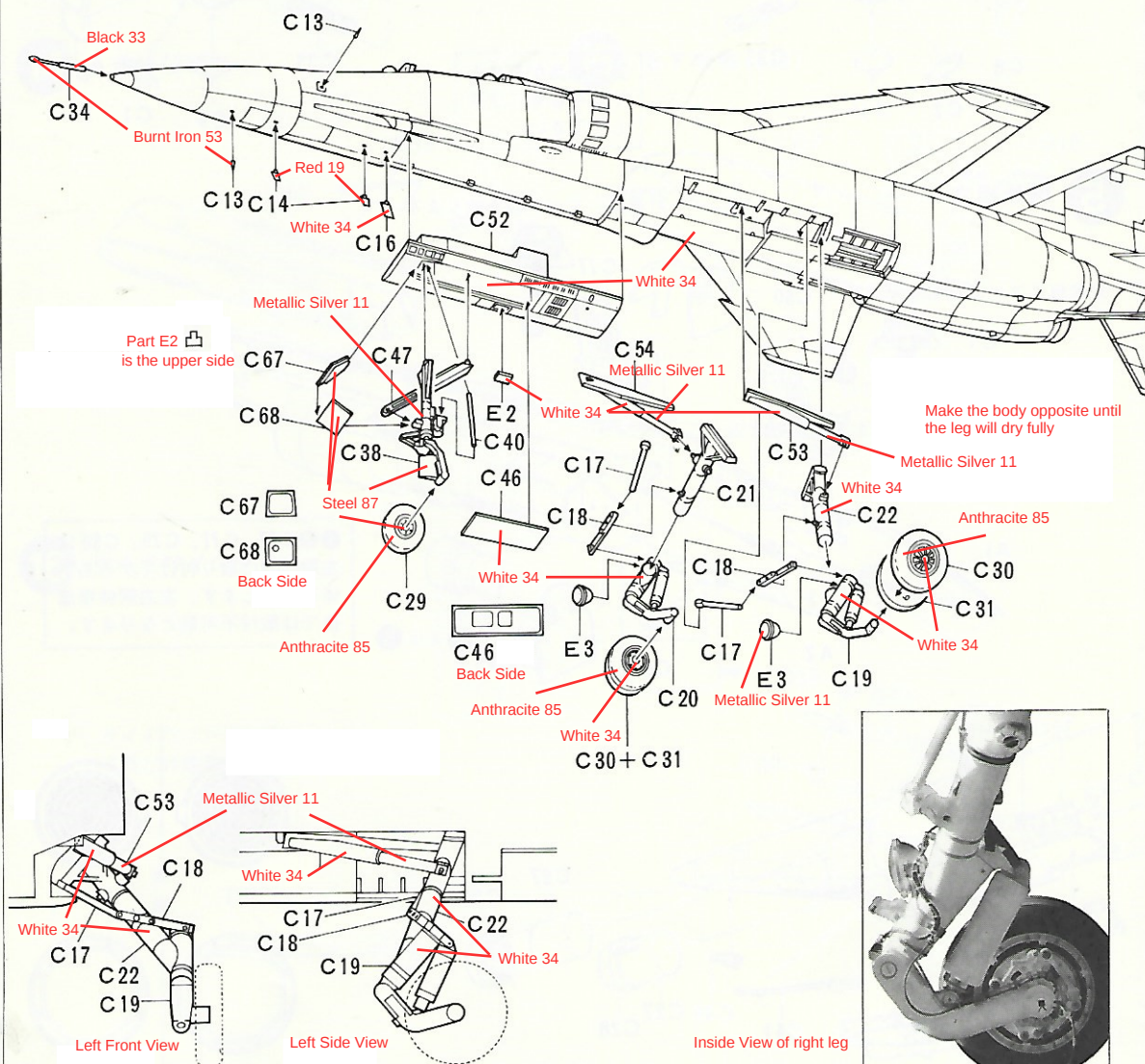
6

## Fixing of Wing



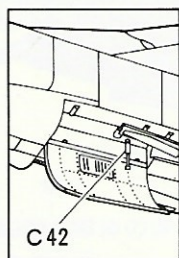
7

## Fixing of Landing Equipment

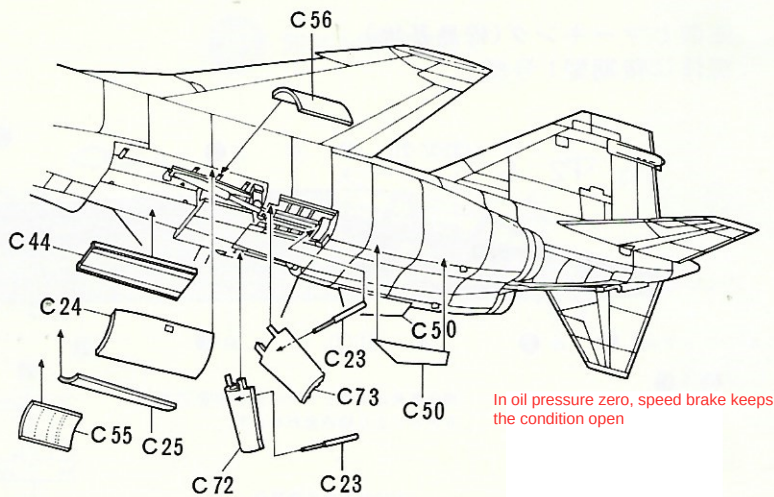


8

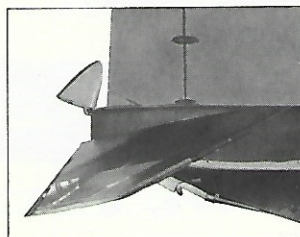
## Fixing of Outside Board



Door is closed in time of staying the land. Use the parts C42 to keep the door open



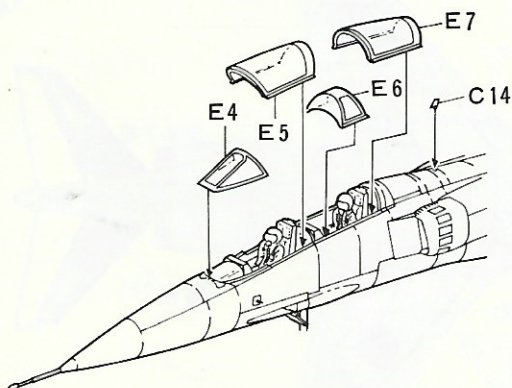
In oil pressure zero, speed brake keeps the condition open



In oil pressure zero, horizontal tail plane becomes like the left picture.

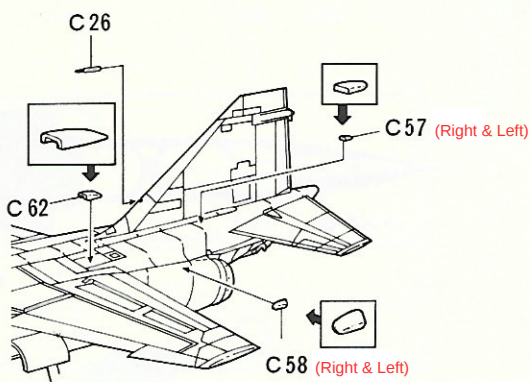
9

## Fixing of Canopy



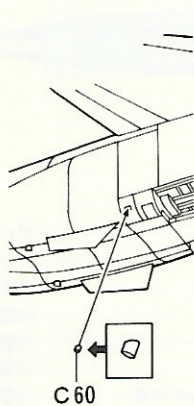
10

## Fixing of Air Intake &amp; Exhaust Door

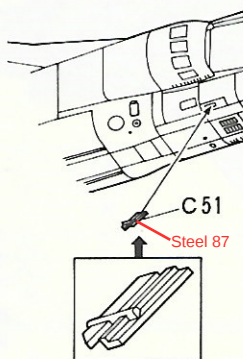


11

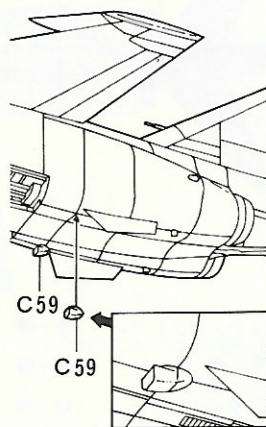
## Fixing of other parts



Starboard



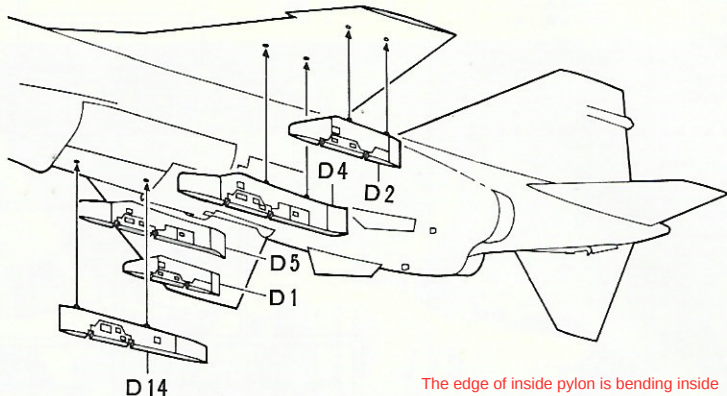
C51  
Steel 87



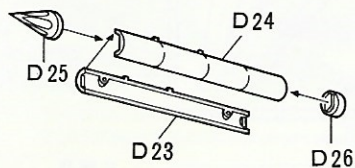
Bottom Picture

## 12 Fixing of Pylons

Make sure the number of pylons

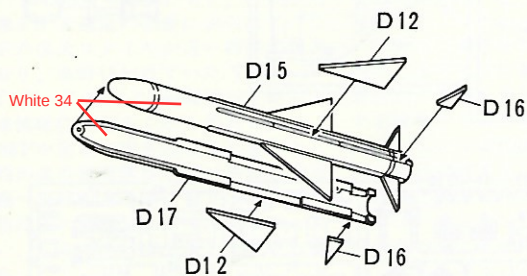


## 13 Rocket Pod (Prepare 2)

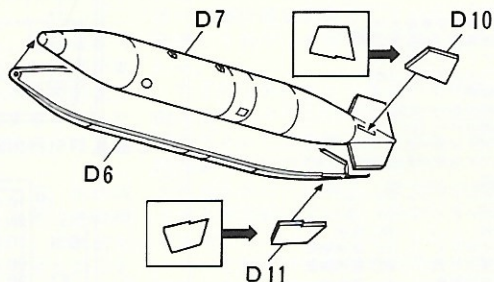


The edge of inside pylon is bending inside

## 14 A S M (Prepare 2)



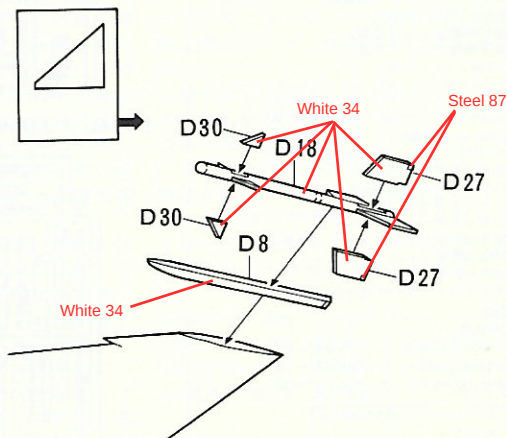
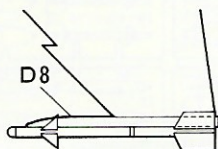
## 15 Drop Tank (Prepare 2)



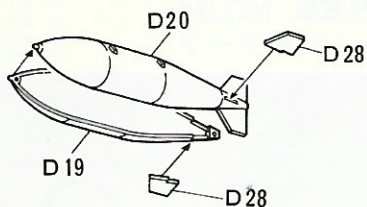
Sidewinder

## 16 Fixing of Outside Pylon

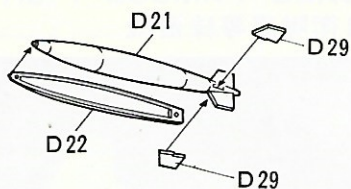
In case of cementing of D30, cement in accordance with the following picture



# 17 750 Lb bomb (Prepare 2)

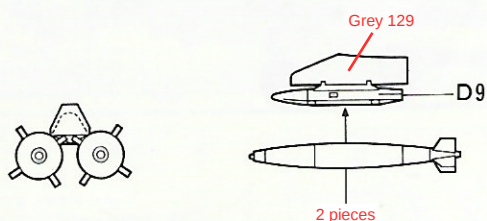


# 18 500 Lb bomb (Prepare 4)

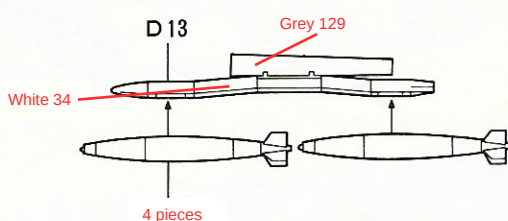


## Equipment of 500 Lb bomb

## 19 In case of outside or inside (Use of DER)



## 20 In case of Centre Pylon (Use of FER)

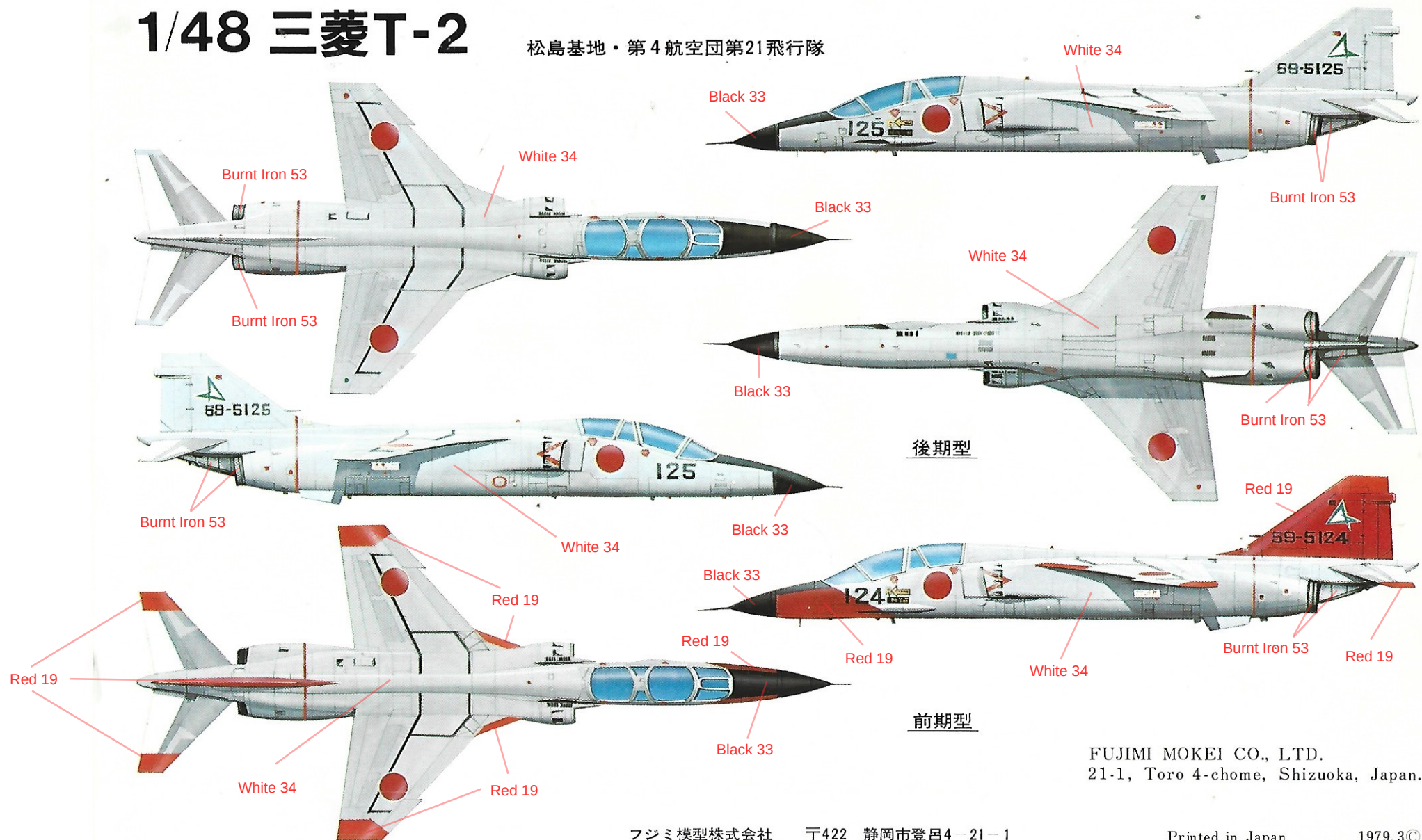


## 21 Equipment to each pylon

|                   | Outside  | Inside   | Centre   | Inside   | Outside  |
|-------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| Drop Tank         |          |          | 15       |          |          |
| 750 Lb bomb       |          |          | 17       |          |          |
| RL-4 Rocket Pod A |          | 13       |          | 13       |          |
| A S M - 1         |          | 14       |          | 14       |          |
| 500 Lb bomb       |          | 20       | 4 Pieces | 20       |          |
|                   | 19       | 2 Pieces | or       | 2 Pieces |          |
|                   | 2 Pieces |          | or       |          | 2 Pieces |
| Sidewinder        | 16       |          |          |          |          |
| Wing Edge         |          |          |          |          |          |
| Wing Edge         |          |          |          |          |          |

# 1/48 三菱T-2

松島基地・第4航空団第21飛行隊



FUJIMI MOKEI CO., LTD.  
21-1, Toro 4-chome, Shizuoka, Japan.

フジミ模型株式会社 〒422 静岡市登呂4-21-1

Printed in Japan

1979.3©